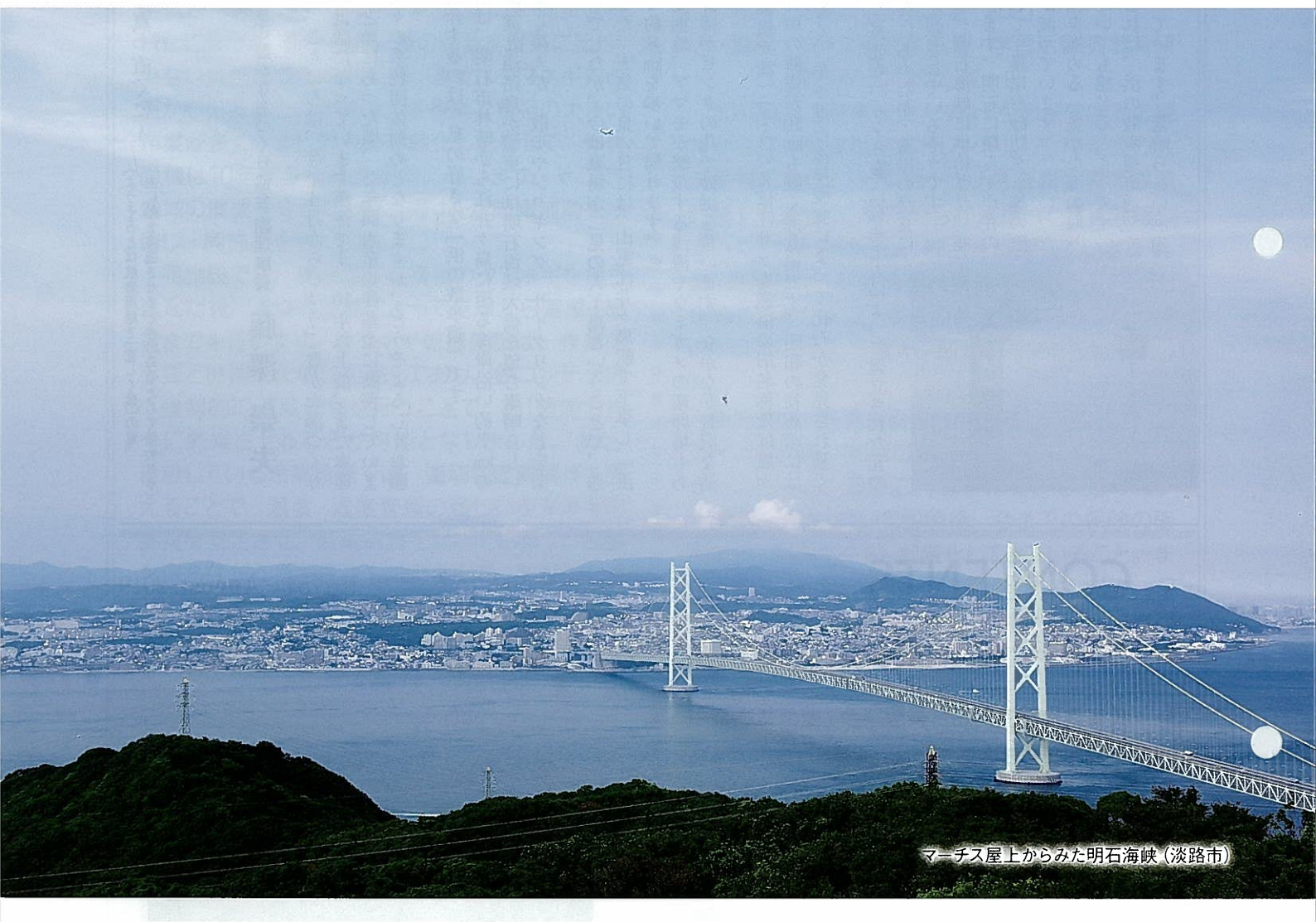
拓水

TAKUSUI
No. 754

8
August.2019

発行（一財）兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



マーチス屋上からみた明石海峡（淡路市）

組合長懇談会・豊漁祈願祭

2019マリンスクール（コープこうべ・JF神戸市・JF兵庫漁連）

《今月の海上安全標語》 ～ 暑い日が続いています。熱中症対策を ～

熱中症の予防は喉が渇く前に水分・塩分補給を行うことが重要です。コーヒーなどカフェインが含まれるものは利尿作用があるので逆効果になることも。適切な補給を行いましょう。

熱中症 「まだまだいける」は 危険サイン では、今月も安全操業で!

ようそろ

～ずっと真っ直ぐに～

（ようそろとは航海用語で「宜しく候」の意。主に船を直進させるときの号令として使われる）

浜の散歩道

公益財団法人 ひょうご豊かな海づくり協会 副理事長 **藤澤 崇夫**

皆さん、こんにちは、今年4月からひょうご豊かな海づくり協会でお世話になっています藤澤です。10年以上前、まだ水産会館が中之島にあった頃、2年間水産振興基金に勤務していました。久々の系統団体勤めとなりますが、どうぞよろしくお願いします。

今日紹介するのは、私の好きな「浜の散歩道」です。

この道は、明石市林崎から江井ヶ島に至る海岸沿い約7kmの歩行者・自転車専用道で、南に播磨灘と淡路島が、東には明石海峡大橋を望む素晴らしい景色が広がっています。土日には多くの人が、散歩やジョギング、サイクリングなどを楽しんでいます。

私も、これまでは休日だけの利用でしたが、今は職場が二見の人工島ということで、通勤でもこの道を通るようになりました。天気の良い日には、山電江井ヶ島駅で下車し、「浜の散歩道」を通って明石の自宅まで約8kmを歩いて帰ります。

途中、明石原人や明石象の化石発掘地、アマモが繁茂する浅海やウミガメの産卵場もあります。5月にはハマヒルガオの群落がピンクの花で砂浜を覆います。なかなか贅沢な通勤風景です。

明石原人の腰骨が発見された「屏風ヶ浦」（そういえば江井ヶ島漁協の旧名称は屏風ヶ浦漁協だったような…）は、高さ10mの断崖が10kmも続く海食崖です。昭和の初め頃には海岸線を守るコンクリート護岸もなく、年々進む海岸浸食によって化石が発見され易くなっていたのでしょう。

また屏風ヶ浦の一角に建つ天台宗「長光寺」、717年に行基上人によって建立された元の寺は、現在の位置よりも230m沖合にあったが、海岸の浸食によって海中に沈んだと寺の過去帳に記録されているそうです。

この海岸で浸食された大量の砂は、明石海峡に供給され、鹿ノ瀬の形成に一役買ったと想像できます。明石に限らず現在の日本では、国土保全や防災対策として、護岸や砂防ダム等の整備が進み、陸から海への砂の供給が減っています。こういった砂や栄養塩を含め、適切な物質循環を進める「豊かな海の取り組み」が大切だと、この道を歩いていても感じるところです。

今は夏真っ盛りですが、涼しくなれば、浜の散歩道を通って自転車通勤するのも良いかなと思っています。素晴らしい浜の散歩道に感謝です。

CONTENTS

No.754 August. 2019

2 ようそろ

3 兵庫県漁業協同組合長懇談会・豊漁祈願祭
大輪田塾ＯＢ会通常総会

4 摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会 視察研修会
淡路地区漁青連 視察研修

5 ＪＦ但馬・ＪＦ浜坂 後継者向け事業承継セミナー
なぎさ信漁連 渉外・窓口担当者向け研修会

6 ＪＦ仮屋青壮年部による水産教室
今年も開催 2019年マリンスクール

7 兵庫JCC通信

8 旬に想う
大輪田塾だより

表紙の言葉

「マーチス屋上からみた明石海峡」（淡路市）

海上保安庁 第五管区海上保安部 大阪湾海上交通センター 通称マーチス屋上からの景色です。MARINE TRAFFIC INFORMATION SERVICE の頭文字をとり、MARTIS（マーチス）と呼ばれています。

明石海峡を一望できるこの場所から、海上交通に関する航行情報提供および航行管制の業務が行われており、私達の漁や航路の安全が保たれるよう見守っています。これからもよろしくお願い致します。

令和元年 兵庫県漁業協同組合長懇談会・豊漁祈願祭を開催

水産政策の改革について講演をする大森専務

講演後に引き続き開催された県域協議

ＪＦ兵庫漁連（田沼　政男会長）は7月31日（水）、神戸市内において豊漁祈願祭ならびに兵庫県漁業協同組合長懇談会を開催しました。

「令和元年豊漁祈願祭」は午前11時から海神社で執り行われ、県内ＪＦ組合長、系統団体、行政から約70名が出席しました。神事は厳かに執り行われ、参加者一同は豊かな海の創出と豊漁、操業の安全を祈願しました。

この後、神戸市内のホテルに場所を移して「令和元年兵庫県漁業協同組合長懇談会」が開催され、『水産政策の改革』への対応について」、「ＪＦグループ次期運動方針（組織協議案）について」の2講演が行われました。

はじめに「『水産政策の改革』への対応について」と題して、ＪＦ全漁連 大森敏弘専務が講師を務められました。講演では、昨年末に成立した改正漁業法等の制度運用等の話に加え、ＪＦ全漁連としての対応・見解等について説明がありました。講演後は参加者から様々な質問が寄せられ、当該テーマに対する参加者の関心の高さが伺われました。

続いて、ＪＦ全漁連 信用・組織指導部　杉田　成部長より「ＪＦグループ次期運動方針（組織協議案）について」と題して、全漁連が策定した次期運動方針の詳細について説明がありました。講演後は引き続き、組織協議案についての県域協議に移り、協議案の内容について活発な意見交換がなされた後、閉会となりました。

なお、ここで寄せられた意見や要望を県漁連が取りまとめたうえで全漁連に提出し、今年11月22日開催予定の「ＪＦ全国代表者集会」で諮られる予定です。

（文：ＪＦ兵庫漁連指導部）

海神社で執り行われた豊漁祈願祭の様子

大輪田塾ＯＢ会通常総会を開催

大輪田塾ＯＢ会（戎本　裕明代表幹事：1期生　ＪＦ明石浦）は、7月27日(土)、兵庫県水産会館において通常総会を開催し、東根　壽塾長、兵庫県水産課 長島　浩課長らを来賓に迎え、修了生・事務局併せて28名が参加しました。

開会にあたり東根塾長は「大輪田塾ＯＢ会が、世代、地域を越え漁業に関して様々な意見交換や議論の場となり、将来の兵庫を担っていく組織になることを期待する」と挨拶しました。

総会では平成30年度事業報告及び令和元年度事業計画が承認されました。終了後、ＪＦ兵庫漁連指導部 樋口 和宏氏より「豊かな海の実現に向けた最近の動向について」と題した講演が行われ、瀬戸内海環境保全特別措置法改正の概要や兵庫県播磨灘流域別下水道整備総合計画の改定、兵庫県環境審議会水環境部会 瀬戸内海再生推進方策検討小委員会での瀬戸内海栄養度に下限値を設ける案が示されたことなど、豊かな海の実現に向けた活動等が説明されました。続いて、なぎさ信用漁業協同組合連合会 本店営業部融資課 篠原 弘樹氏より、「なぎさ信漁連のやりたいこと」と題した講演が行われ、近年、なぎさ信漁連が行ってきた漁業を事業継承するための勉強会や漁業の効率化に向けた漁業ＩＣＴの普及など、これまでの貯金・融資といった金融業務だけでなく、漁協・系統団体と連携した漁家経営支援の取り組みについて説明がありました。その後の意見交換では、下水道施設への栄養塩管理運転実施を市へ働きかけることが重要であること、事業承継勉強会の実施やＩＣＴ実施状況など活発な意見交換が行われました。

摂津播磨地区漁業協同組合 青壮年部連合会 視察研修会

摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会（大西 正起会長：JF伊保）は7月16日（火）、17日（水）に徳島県を訪れ視察研修会を行い、部員をはじめ県・系統団体の関係者あわせて約30人が参加しました。

視察先であるうみの株式会社は徳島県海部郡美波町にあり、代表取締役の中村 智治氏より、食用二枚貝に関する人工種苗についてポイント3つに分けて説明を受けました。

ポイント1【餌から自社で生産、だから安全】

二枚貝の餌料となるプランクトンから自社陸上設備で生産し、各ロットごとに成長に合わせて給餌量を調整している。できるだけ健康的な状態で納品するため飼育に使用する海水もろ過だけでなく紫外線滅菌しており、昨今問題となっている病原体の持ち込み原因にならないよう細心の注意を払っている。

ポイント2【人工種苗ならではの種類】

牡蠣類の天然種苗は、ホタテ殻に付着したものが一般的ではあるが、うみの株式会社では近年要望が増えているシングルシードに力を入れて生産している。また、マガキについては、染色体を増やした三倍体（生殖能力がない）を生産しており、種苗の品質を均一化するため、通常自然界には存在しない四倍体を親に用いる方法で三倍体の生産を行っている。

うみの株式会社人工種苗について

ポイント3【選択肢の提供】

複数の系統の親貝から採苗した稚貝を生産しており、納品時期・稚貝のサイズについても、ある程度要望に応えられる。

これらの取組みは、養殖海域に合わせた貝を作出したいといった要望や、養殖スケジュールあるいは出荷時期を見据えて種苗の導入を検討している人に合わせた方法を行っている。

説明後、養殖施設を見学し、兵庫県では主に二倍体の天然種苗の取り扱いしかなく、三倍体取扱い時は農水省の認可を義務付けられているので、それに必要な認可取得の方法を熱心に質問していました。

大阪湾海上交通センター

続いての視察先である第五管区海上保安本部大阪湾海上交通センターは兵庫県淡路島にあり、船舶航行の安全に重要な役割を持つ様々な施設を見学しました。

管制室では最新のレーダーや特殊な器材に驚くとともに、AIS（船舶自動識別装置）等からの情報を収集し、明石海峡の安全航行のために情報提供を行っていることなどの説明を受けました。ほとんどの部員が初めての経験となり、大阪湾海上交通センターのおかげで海の秩序が守られていると痛感しました。

青年部員から積極的に質問し、今後、より一層安全操業を心掛けるとの意見も出るなど、実りある視察研修となりました。

（文：摂津播磨地区漁協青壮年部連合会事務局）

淡路地区漁青連 視察研修

淡路地区漁協青壮年部連合会（山崎 大輔会長：JF淡路島岩屋）は、7月9日（火）～10日（水）、漁家経営安定・操業安全の知識を広げるため、大阪府泉州地域漁協と兵庫県の船舶関係工場の視察をしました。

9日、まず、大阪府岸和田漁港で、大阪・泉州広域水産業再生委員会 森事務局長より、イワシ巾着漁協の施設整備とその効果について話を伺いました。泉南地域は、大阪湾で獲れているものの、兵庫県に比べ、魚価が2～3割安く取引されていたそうですが、船曳網漁の取引方法を「相対」から「競り」に変更したり、関西国際空港を利用し日本のみならず海外へ出荷することにより、魚価が向上し、漁業者の収益向上に寄与できたとの事でした。なお、市場のIOT化を導入した市場整備についても関心が高く、たくさんの質問が出ました。

ヤンマー舶用システム㈱塚口工場にて

午後は、JF岡田浦にて、佐野組合長と東青年部長よりアナゴの畜養ついて説明を受けました。難しい水温管理と給餌について大学からアドバイスを受けながら、泉南あなごとして製品化に取り組み、ふるさと納税の返礼品などで使用し、地域全体への貢献に寄与できていることを聞き、自分たちもモチベーションがあがりました。

翌10日は、ヤンマー舶用システム㈱塚口工場にて、船舶用エンジンの説明と生産や省エネ運航の効果などについて学習しました。ここでは、人的ミス防止のため確認作業に機械を有効に使い、組み立てを全て一人のエンジニアが行い、品質の向上と柔軟な対応が可能になったそうです。

午後には、古野電気㈱研修センターにて、舶用電子機器の有効活用と将来を見据えた新商品・新技術についての紹介がありました。こちらでは、魚群探知機やGPSレーダーなど漁業者には欠かせない機械を製作されているので、多数の方に対応していただき、意見交換会では「魚種の判別ができる高性能レーダー」「漁業者の日々の海域情報をビッグデータとし、海域情報・魚群情報を統合した新システムを作りあげたい」など、今後の製品に関する展望を聞きました。なお、「商品を選ぶ時のポイントは何か？」と質問され、部員一同「一番の決め手は商品の信頼性」と返答しました。2日間、とても有意義な視察となりました。

（文：淡路地区漁青連事務局）

JF但馬・JF浜坂にて後継者向けの事業承継セミナーを開催

なぎさ信漁連は、令和元年7月に、JF但馬（香住支所）・JF浜坂の沖合底曳網・紅ずわいがにかご漁の後継者の方々を対象に事業承継セミナーを開催しました。昨年度は船主向けに同様のセミナーを開催しており、今回後継者に対して行われたことでJF但馬（香住支所）・JF浜坂における一連の事業承継セミナーが完結しました。

セミナーの講師を務めたのは後継者の支援を専門とする経営コンサルタント会社「㈱後継者の学校」の大川原 基剛代表取締役。セミナーは「経営者が持つべき視点と決意」、「お金の知識と人組織の力」、「後継者による事業承継計画」の全3回に分かれており、後継者が経営者になるための決意の持ち方、財務・人・組織の考え方、事業承継の考え方・やり方について学びました。セミナーには、後継者だけでなく、漁協・信漁連の職員も参加し、後継者と一緒になって学び、考えるセミナーとなりました。

兵庫県の漁業者の数は10年間で24・7％程度減少しています（※1）。原因は後継者不足によるもので、後継者が決まっている経営体の割合は16・5％という数字も出ています（※2）。

JF浜坂での開催風景

JF但馬での開催風景

今後、地場産業としての漁業を支えていくことになる貴重な後継者の方々が円滑に事業承継を行える支援をすることは、なぎさ信漁連の重要な役目のひとつだと考えています。

なぎさ信漁連は、お金を借りる、貯める、送るといった従来の金融機能の提供だけではなく、今回のセミナー開催による事業承継の円滑化支援のように、水産業に携わる方々の課題解決に一緒になって取り組み、より一層皆様の役に立っていきたいと考えています。

（※1）2013年の兵庫県の漁業経営体数3、168（2003年時点：漁業経営体数4、210）。近畿農政局兵庫県政事務所「漁業センサス」より。

（※2）2013年の後継者のいる個人経営体は438経営体。全個人経営体数2、648に占める割合は16・5％程度。近畿農政局兵庫県政事務所「漁業センサス」より

なぎさ信漁連が 渉外・窓口担当者向け 研修会を開催

7月20日（土）、なぎさ信漁連において、営業力向上・漁業金融機能強化に向けた研修会が開催されました。兵庫県域・和歌山県域の渉外担当者および窓口担当者約30名が一堂に集まりました。

研修会では、㈱金融R&BMFP研修社の代表取締役を務める小関 功一氏を講師として、お客様へのサービス向上に向けた実践的な知識とスキルを学習しました。研修会のなかでは、グループ毎に、お客様のために何ができるか、現状の活動と課題、今後に向けた解決策等について討議するなど、お客様への更なるサービス向上に向けて活発な意見交換が行われました。

なぎさ信漁連では、今回の研修会を踏まえ、会員・漁業者・加工業者並びに漁村地域の皆様に「安心」・「安全」の金融サービスを「安定」的に提供していく地域密着型の金融機関を引続き目指していくとのことです。

JF仮屋青壮年部による水産教室開催

8月6日（火）、JF仮屋青壮年部（戎 俊輔部長）は淡路市学習小学校5年生約50名を対象に、様々な体験を交えた水産教室を開催し、漁業についての理解を深めました。

子どもたちは、仮屋漁港内で数隻の漁船に分乗し、JF女性部員の方々が作ったEM団子を海に投げ入れた後、バケツに入ったクルマエビの稚エビを放流し、深く泳いでいくエビたちの姿を見送りました。あいにくの時化で予定されていた小型底曳き網漁の揚げ網作業見学はできませんでしたが、初めて漁船に乗った子どもたちは、大喜びの様子でした。

帰港後は、県洲本農林水産振興事務所水産課の岸本 早貴さんから、県内で漁獲される魚の種類や漁法についての話があり、クイズ大会も行われました。水産技術センター 高倉 良太さんからは、豊かな海についての説明があり、子どもたちは豊かな海の本当の意味を、しっかり理解した様子でした。最後に、JF仮屋青壮年部 山口 公明さんより、地元仮屋の漁業についてのお話があり、自分たちの地元が漁業の活発な地域であるということを学んでいました。子どもたちにとっては、普段できない貴重な体験であり、思い出の1つになったようです。

説明を聴く子どもたち

今年も開催！ 2019年マリンスクール

コープこうべ・JF神戸市・JF兵庫漁連による協同組合の連携活動として毎年実施しているマリンスクール（2コース）が今年も開催され、参加した親子連れ（約180人）は楽しく漁業や県内産水産物について学びました。

第37回となるJF神戸市コース（7月25～26日）では「せり市」を見学したり、「魚のつかみ取り」、「ヒラメ稚魚の放流」、「タコの塩もみ」などを体験したほか、兵庫の漁業と環境のつながりを学習しました。また、稚魚の放流では、神戸市立栽培漁業センターの協力で魚を増やすことの大切さを学びました。

一方、第9回目となるJF兵庫漁連SEAT―CLUBコース（8月2日～3日）では「干しダコ作り」や「アジの三枚おろし」、「チリメンモンスター探し」、「兵庫の漁業と環境の学習」に挑戦しました。みなさん、普段あまり魚にふれる機会がないのか、どの内容も親子で一緒に目を輝かせて取り組んでいました。

どちらのコースも、終了後のアンケートでは多くの方が来年も参加したいとのことで、とても楽しんでもらえたようです。JF兵庫漁連では、このマリンスクールを通して、漁業や水産物をより広く身近に感じてもらえるよう、今後とも取り組んでいきたいと考えています。

（文：JF兵庫漁連 SEAT―CLUB）

タッチプール

ヒラメ稚魚の放流（JF神戸市コース）

干しダコづくり用のタコの掴みどり

魚のさばき方講習

JAあわじ島

出荷作業の機械化で、農家の負担を軽減

ＪＡあわじ島では、平成29年の春に、「タマネギ乾燥冷蔵施設」を導入しました。この施設は機械化によって、収穫後の一連の作業を従来に比べ、少ない負担かつ効率的に行います。タマネギの収穫から出荷までの作業は、手作業で負担の大きい作業が多く、また管内の高齢化も影響して、作付面積は10年前から減少傾向にあります。そこで、地域の農業を守るために、同ＪＡが国庫補助を活用し、同施設を導入しました。

同施設では、組合員が収穫後のタマネギを持ち込んだ後、４つの設備によって乾燥から選果・出荷までを行います。タマネギ乾燥施設は、作業の手間と時間を大幅に短縮しており、鉄コンテナ内へ強制的に通風乾燥を行うことで、約1週間で均一に乾燥させることが可能となりました。また、併設している冷蔵設備では、適切な貯蔵環境を整えることで、温度・湿度管理の難しいタマネギの品質を安定させ、貯蔵病害を防いでいます。品質を保ちながら長期保存も可能なので、安定的な通年出荷を実現し、農業者の所得向上に貢献しています。また、今年度は昨年度の約1.2倍にあたる、計4500トンの出荷申し込みが組合員から見込まれており、期待の高さがうかがえます。

タマネギ乾燥冷蔵施設の貯蔵庫内

http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/

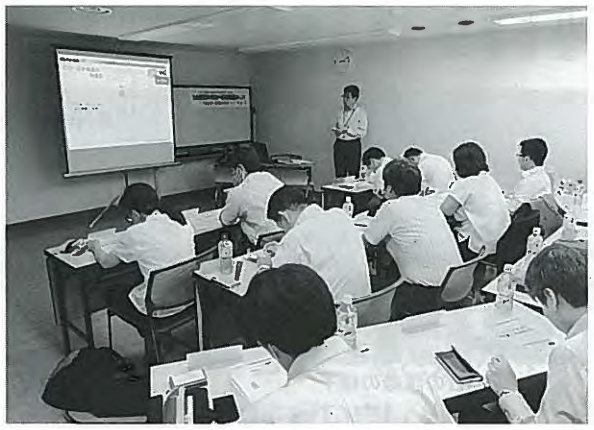
2019年度

兵協連共済生協部会研修会報告

(1) 日時：7月16日（火）14：00～15：30
(2) 場所：兵庫県民会館３階「302」
(3) 講師：コープ共済連 教育・学習活動部 教育研修グループ 村松 誠一氏

2019年度の研修会テーマは「生命保険業界の現状から探る保障商品のトレンド」。2019年度の共済生協部会は、「研修会」や「各会員生協の課題討議」を通して、協同組合が連携して変化対応していくことを目的とし、部会を開催していきます。第1回開催は、『「生命保険業界の現状とトレンド」を知ることにより、今後の共済推進にもつながるのではないか。』と考え、研修テーマを設定しました。

参加者は、共済生協部会員10名とコープこうべ、コープ共済連、神戸市民生協、兵庫労働共済生協からの計19名。最初に、「日本の現状（人口の減少と高齢化）」について説明後、今までの保険の販売方法（加入ルート）が変化してきていること。また、インターネット通販などが進化しているが、保険販売においては依然として対面が基本（営業職員・保健ショップ）などや、「CO・OP共済の現在地と他保険比較」では、CO・OP共済と他の保険内容を比較形式で詳しく説明いただきました。参加者からは、「生命保険業界のトレンドが理解できた」「CO・OP共済の強みを訴求していく必要性を感じた」などの感想が寄せられ、これからの共済加入推進に役立つ有意義な研修になりました。



研修風景

http://www.coop-hyogo-union.or.jp/

海上花火大会

旬に想う

写真と文 遊方子

マンガ（漫画）のはなし

◆「マンガ」は、活字の書物に比べ知能程度が低く見られそうで、マンガ好きを自慢した事はないが、書架には多くの漫画本がある。漫画を定義するのは難しい。江戸期に漫画に相当する言葉として「鳥羽絵」や「大津絵」があるが、一種の遊び心や風刺の気持ちから生まれた『劇画』に始まるようだ。明治に横浜で刊行の「ジャパン・パンチ」でポンチ絵という言葉が出来、そして雑誌も作られた。明治24年、福沢諭吉の親戚筋「今泉一瓢」がアメリカ遊学から帰国し時事新報へ入社、ポンチ絵を描きカリカチュアの訳語に「漫画」と当て字した。北沢楽天が職業漫画師と自称「時事漫画」を連載、漫画は少しずつ定着する。

◆本来、漫画とは一コマや四コマほどで人間の生活や流行、社会や政治の断面を誇張して風刺し、過小評価して笑いを誘うものだった。切り取った事柄を見て苦笑し、ほくそ笑む痛快な絵画である。葛飾北斎の『北斎漫画』も公家や武士を風刺しており、庶民には鬱憤晴らしになったと思う。江戸期、木版画の技術の発達により華麗な錦絵や浮世絵が生まれ、そこへ劇画・風刺画・漫画などの新しい世界が展開された。東海道大津宿で「大津絵」として評判を呼び、護符的な性格を持った絵が生まれた。これもマンガの祖先であるといえそうだ。

◆マンガ誌は明治10年「団団珍聞」に始まり、戦後「週刊子供マンガ新聞」が出ている。過去においてマンガは悪書扱いされ低俗なものと蔑まれたが、現代はコミックと名前を変え、欧米や東南アジアへと進出し大いに評価され人気がある。マンガは日本文化の一端となり芸術であると胸を張る人も多い。実現はしなかったが、莫大な国税を投入して文化施設を作る計画もできていた。そして一九八九年、昭和の終焉と共に戦後漫画界を代表する「手塚治虫」が亡くなり大手新聞は第一面で報道した。マンガ界の巨星は西方浄土へと旅立った。

◆手塚治虫は後年はアニメ作りに熱心で、ウォルト・ディズニーに憧れ惹れて人生が決められたと自伝で語っていた。虫プロを起こし実験的映画を拵えた。その天才的なアイディアは尽きることなく『鉄腕アトム』や『ジャングル大帝』を次々と作りアニメブームを生んだ。宝塚の《手塚治虫記念館》へ入ると未完の大作『火の鳥』の生命維持装置が再現され、カプセルには彼の思い出の品や原稿・スケッチ・通知簿等が展示されている。期間限定ながら趣向を凝らした企画も観られる。偉大な漫画家の膨大な資料から、何を読み取るかは自由であるが、鉄腕アトムの軽快なテーマソングが聞こえて来るような気がして…。

大輪田塾だより

7月は2回開講 4講座

7月の大輪田塾は2日（火）と23日（火）の2回開講されました。

2日は2講座開催されました。「水産加工品・鮮度保持等について」では、兵庫県但馬水産技術センター 研究員 森 俊郎氏より水産加工の基礎から品質評価の仕組み、鮮度保持技術について幅広く説明を受けました。また、「なぎさ信用漁業協同組合連合会 代表理事理事長 黒田 俊文氏、本店営業部副部長 加藤 健氏、本店営業部融資課 篠原 弘樹氏よりこれまでの貯金・融資といった金融事業に加え様々な漁家経営支援を実施し、高度な相談にも対応し漁業者・組合をサポートできる組織作りについてのお話をききました。

23日も2講座され、「漁業法概要」では、県水産課漁政班 中村匠氏から、漁船法の内容や漁船登録や総トン数など幅広い内容で講義が行われました。また、「日本海の底びき網漁業と主要底魚資源」では、兵庫県但馬水産技術センター 主席研究員 大谷 徹也氏より、日本海の海洋構造や漁法、ズワイガニなど主要魚種の資源状況について説明が行われました。

様々なジャンルの講義が行われましたが、両日とも塾生は最後まで熱心に聞き入るとともに、活発な意見交換も行われました。

23日の講義の様子

2日の講義の様子

発行：一般財団法人 兵庫県水産振興基金
〒673-0883 明石市中崎1丁目2番3号 兵庫県水産会館2F
TEL 078-919-1331 FAX 078-919-1336